

令和6年度実施したデジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)事業の概要等

事業名	高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりプロジェクト
事業の背景	【背景】 ●右肩上がりの経済成長を続ける社会から、先行きの見えない時代へ社会は想像をはるかに超えるスピードで変化している。こうした時代を生きてゆくこれからの子どもたちには、自分たちの力で未来を切り拓いていこうとする強い意志が求められている。 ●そのためには、社会への感度があがる高校時代にどれだけ社会と接する機会を持ち、自分の意志で挑戦を続け、自分の手で未来をつくる原体験を積み上げることが重要である。 ●人口減少、過疎化、高齢化などにより、人・物・金がないなど課題先進地である地方には、自分ごととして課題解決に挑戦できる機会が日常の中に溢れている。また、親や先生以外の地域の様々な大人たちに囲まれ、ともに挑戦することを通して切磋琢磨できる機会も多い。 ●多くの課題を抱えた地方という世界の先進地で、立場や世代を超えた多様な人々と、実社会の縮図体験となる高校3年間を過ごせるよう、地域と高校の協働による魅力ある教育環境づくりに取り組むことが大切である。 【今後のビジョン】 ●現プロジェクトは、高校3年間に焦点をあてたものであったが、高校でいきなり地域で挑戦するフィールドに飛び込むより、中学以前でもそうした場に触れ、高校時代の取組にしっかり接続させることが必要である。また、高校卒業後も、地域・企業との共創機会を地域内外の関わりの中でもつことで、濃い関係人口に結び付け、その後の地方創生を担う人づくり、新たな若者の流れづくりにつなげていく。 ●また、こうした取組の情報を都市部へ届けるためには、地方の1県だけでは、情報の伝達やプロジェクトの展開に限界がある。(一財)地域・教育魅力化プラットフォームが主催する「地域みらい留学」等を通じて、全国各地で、高校を核とした地方創生の取組が始まってきた。こうした自治体と連携し、一体となってプロジェクトを推進することで、全国での大きなうねりにつなげる。 ●中学以前の取組や高校卒業後の取組を加え深化・高度化させたプロジェクトを、全国の自治体間で共学共創することで全国・海外へスケールアウト(拡散・増殖)させ、高校を核とした新たな人づくり・人の流れづくりを実現させる。 【構造的な課題(A)】 【構造的な課題①】教育現場における地方創生視点の欠如(学校、教員側の課題) 教育現場に「学校を核とした地方創生」という視点がなく、学校を起点とした地域づくりが進まない。 【構造的な課題②】教育は学校内で完結するという固定観念(地域、住民側の課題) 子どもの育ちを学校だけで抱え込んでしまうのではなく、「地域の子どもは地域で育てる」を基本として、地域でどのような子ども達を育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民や学校、行政と協働で策定し、地域と一体となって子ども達を育む取組を進めていく必要があるが、地域住民の教育活動への参加機会が少なく、教育に関わるのが「学校任せ」「行政任せ」となっている。 【構造的な課題③】学校設置者(県、市町村)が異なることによる校種(小中学校、高校)の壁 保育所・幼稚園から高等学校を一貫し体系的なキャリア教育を進めるためには、学校間の円滑な連携・接続を図ることが重要であるが、学校設置者が異なるため「校種の壁」がある。特に、中学校と高等学校の間には大きなギャップがある。 【構造的な課題④】児童・生徒の減少による弊害 児童・生徒数の減少に伴い小規模校・少人数クラスになり、児童・生徒の「関係性の固定化」「価値観の同質化」「刺激や競争の不足」などの弊害が生じている。 【構造的な課題⑤】民間活力の活用を前提としない学校運営・経営の実態 学校運営・経営は、行政が専ら担い、これまで民間の知恵や工夫が活かされてこなかった領域である。 【先行して実施した地方団体が感じた課題(B)】 【新たな課題①】教員の人事異動等による中長期的な関与・コミットメントの困難さ 【新たな課題②】学校と地域が協働した組織づくり 【新たな課題③】高校卒業生(特に県外生)を高校や地域と結び付ける仕組みがない 【新たな課題④】中学以前に地域と関わる機会や実践活動の機会がない 【新たな課題⑤】単独でのプロジェクト展開の限界 【新たな課題⑥】学校外での学習指導を受けられる機会がない

事業の概要	1. 地方の魅力的な環境を全国の自治体と一体となって都市部へ届けることで、地方の高校に進学するという選択肢をつくる【地域みらい留学】 【構造的な課題④】児童・生徒の減少による弊害の解決に寄与する理由 →地方の生徒にとって、都市部の生徒とのふれあいを通し、これまでの限られた人間関係の中では経験できなかった多様な価値観との出会いや、切磋琢磨を通しての視野の広がり、交流の拡大やコミュニケーションの向上など、様々な効果を生み出しているため。 【新たな課題⑤】単独でのプロジェクト展開の限界の解決に寄与する理由 →全国の先駆的な自治体と一体となって都市部に情報発信することで、情報発信力やマーケット（進学先）を格段にアップさせることができる。地方の高校に進学することの価値をしっかりと都市部の中学生親子に届けることで、中学卒業段階での地方の高校進学を当たり前の世の中にできるため。 2. 高校段階での取組を強化するとともに、中学までの取組を加えて、地域との協働による魅力ある教育環境づくりを推進する。【地域×高校】 （1）【構造的な課題①】教育現場における地方創生視点の欠如（学校、教員側の課題） 【構造的な課題②】教育は学校内で完結するという固定観念（地域、住民側の課題） 【構造的な課題③】学校設置者（県、市町村）が異なることによる校種（小中学校、高校）の壁 【構造的な課題⑤】民間活力の活用を前提としない学校運営・経営の実態 【新たな課題①】教員の人事異動等による中長期的な関与・コミットメントの困難さ 【新たな課題②】学校と地域が協働した組織（推進体制）づくり →上記の課題の解決に共通して寄与する理由 地域・学校（小中学校、高校等）・行政の協働体制「魅力化コンソーシアム」で地域の実情に応じた「育てたい子ども像」を議論し取組を地域住民の参画のもとで進めていくことで、「学校任せ」「行政任せ」から脱却し、地域住民の教育分野への参加が生まれるとともに、学校側も地域と一緒に取組を進める中で、地方創生の流れに触れることができるため。 （2）【構造的な課題②】教育は学校内で完結するという固定観念 【新たな課題④】中学以前に地域と関わる機会や実践活動の機会がない 【新たな課題⑥】学校外での学習指導を受けられる機会がない →上記の課題の解決に共通して寄与する理由 地域住民の参画による地域をフィールドとした様々な取組により、地域の自然、歴史、文化などの実体験や地域の多様な人々との交流や対話を通じて、小規模クラスの限られた人間関係の中で体験できなかった多様な価値との出会いや、地域の魅力や課題の再発見につながるとともに、学校で学ぶことと地域社会でよりよく生きることにつながり、地域社会と学校とのつながりをより強化できるため。 3. 高校卒業生が地域と関わり続ける仕組みをつくり、高校時代の挑戦体験や地域との関わりを卒業後にも持続させる。【卒業生関係人口化】 【構造的な課題②】教育は学校内で完結するという固定観念 【新たな課題③】高校卒業生（特に県外生）を高校や地域と結び付ける仕組みがない → 高校卒業後に、地域・企業との共創機会を地域内外の関わりの中で持つことで、関係人口に結び付け、次代の地域を担う人材の育成や移住・定住につながるため。 4. 高校魅力化評価指標導入・実装・価値見える化し、全国に発信【共学共創】																																		
	交付金を充当した経費	【総事業費35,805,073円】・・・国交付金17,820,100円、一般財源17,984,973円 補助率1/2 1.【地域みらい留学】地方の魅力的な教育環境を全国の先駆的な自治体と一体となって都市部へ届けることで、地域の高校留学という選択肢をつくる（小計：11,552,200円） ・地方の魅力ある教育環境や受入体制について都市部等へのプロモーションを展開（WEB・広報宣伝費：9,748,200円） ・都市部等で中学生親子に向けた合同説明会「地域みらい留学フェスタ」を開催・学校魅力強化分析（開催負担金：1,155,000円）、会場借上料等諸経費（649,000円） 2.【高校×地域】高校と地域の協働により魅力ある教育環境をつくる（小計：21,854,873円）対象経費（21,690,000円） ・地域と高校をつなぐことに特化した人材や専門スキル・ノウハウを持つNPO法人等を「魅力化コーディネーター」として配置（人件費・活動費：792,000円、委託料：10,483,000円） ・高校生が地域づくりに参画・挑戦する「地域課題解決型学習」や「多世代対話型交流学习」、「大学企業連携事業」、「グローバルの視点からの課題解決型学習」の実施（講師謝礼：660,000円、コンテスト参加経費：550,000円） ・都市部や海外等の生徒との相互コミュニケーションの場の創出や、地域の将来を担うIT人材の育成のためのICT環境を整備（タブレット端末・PCリース料・使用料・通信料・ライセンス料等：753,720円） ・市町村の交流・研修施設等の地域資源を最大限に活用した寮の運営、地以外生徒受入れ体制整備（受入れ体制整備：440,000円、寮舎監委託料：4,477,113円、寮指導員委託料：3,699,040円） 3.【卒業生関係人口化】高校卒業生が地域と関わり続ける仕組みをつくる（小計：2,178,000円） ・地域内外大学生・高校生との共創「大学生等と生徒の共創キャンプ」を実施（キャンプ実施費用：693,000円） ・事業・政策共創コンテスト（運営費：495,000円） ・高校卒業後に地域での挑戦を応援する「チャレンジファンド」の準備・立上げ（検討経費：990,000円） 4.【共学共創】高校魅力化評価指標導入・実装・価値見える化を全国発信（小計：220,000円） ・「高校魅力化評価指標」導入・分析負担金（220,000円）	重要実績評価指数（KPI）（令和6年度の目標値）	●つながりを築き、新しい人の流れをつくる <table><tr><td rowspan="4">1</td><td colspan="2">高校を核とした関係人口の数</td><td>75</td><td>人</td></tr><tr><td>①</td><td>地域みらい留學生数</td><td>12</td><td>人</td></tr><tr><td>②</td><td>卒業後も地元に関わった大学生数</td><td>2</td><td>人</td></tr><tr><td>③</td><td>高校へのふるさと納税寄付者数</td><td>61</td><td>人</td></tr><tr><td>2</td><td colspan="2">地域みらい留学フェスタ参加者数</td><td>74</td><td>人</td></tr><tr><td>3</td><td colspan="2">全国課題解決大会の参加者数</td><td>5</td><td>人</td></tr><tr><td>4</td><td colspan="2">共学共創ネットワーク参加自治体・学校数</td><td>2</td><td>団体</td></tr></table>	1	高校を核とした関係人口の数		75	人	①	地域みらい留學生数	12	人	②	卒業後も地元に関わった大学生数	2	人	③	高校へのふるさと納税寄付者数	61	人	2	地域みらい留学フェスタ参加者数		74	人	3	全国課題解決大会の参加者数		5	人	4	共学共創ネットワーク参加自治体・学校数		2
1	高校を核とした関係人口の数		75	人																															
	①	地域みらい留學生数	12	人																															
	②	卒業後も地元に関わった大学生数	2	人																															
	③	高校へのふるさと納税寄付者数	61	人																															
2	地域みらい留学フェスタ参加者数		74	人																															
3	全国課題解決大会の参加者数		5	人																															
4	共学共創ネットワーク参加自治体・学校数		2	団体																															